



農作業実習をする受講生



キュウリを収穫する受講生



市民農業大学の集会施設

■ プロジェクト実現のプロセス

市民農業大学

東京都国分寺市は都市農業振興対策として、いち早く市民との協働による「市民農業大学」を実施。その修了生による「援農ボランティア制度」を立ち上げ、成果を挙げている。

同市では平成2年7月に、市農業委員会が「国分寺市農政施策確立に関する建議」を提出。「現行の市民農園を抜本的に見直し、市民と農業者による懇談会、体験学習会、市民農業大学等施策の充実を図り、市民と農業者の相互理解を深める」よう提言した。また、市の長期総合計画でも市民農業大学開設が提唱されたため、平成4年6月に関係団体の支援・協力により同大学が開設されたのである。

受講希望者の募集は市の広報で行い、事業運営などはJA国分寺市(現JA東京むさし国分寺支店)に委託されている。指導は地元のパイオニア農業者が交代で農業体験

学習の指導を担当する。

実施要領によると、①憩いと安らぎの場を提供し、市民の健全な余暇利用を図る。②体験学習により野菜生産や価格形成について学ぶことを目的にしている。

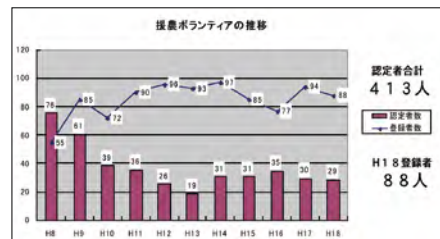
今年度はすでに17年目に入ったが、過去15年間で618人の卒業生があり、そのうち、277人は翌年実施する自主研修過程も修了している。

援農ボランティア制度

援農ボランティア制度は農業者の高齢化や後継者不足の対策に役立てる一方、援農する市民には農業生産技術の向上、仲間との交流や協働活動、社会貢献などに生きがいを見つける機会を提供する場となっている。

東京都の要請を受けて平成8年度に「援農ボランティア・モデル事業」としてスタートし、2年後から市単独事業として実施してきた。今年度は13年目。市民農業大学の受講生を対象に援農ボランティア希望者を募り、講座を設けて養成して市内の受け

入れ農家に紹介するシステムを採用している。平成18年までに認定者は418人、登録者は88人に上っている(グラフ参照)。



■ 取り組みの特徴

同市は「防災協力農地」を設置したり、道路沿いに花を植えるなど先進的な取り組みをしているが、2つの制度とも、農家を指導者にして農家と市民の相互理解を深めているのが第一の特徴である。

第二は、市民農業大学を初級とするとボランティア制度は上級と位置づけられ、体系的な農業技術習得が行われていることである。

プロジェクト概要

①市民農業大学

所在地 : 第1農場 国分寺市東戸倉2丁目
第2農場 国分寺市北町2丁目・5丁目
農地と施設 : 第1農場は約1000㎡で、このなかに集会所、農機具収納庫などもある。第2農場は約450㎡で自主研修農場となっている(いずれも借地)
実施期間 : 毎年4月に開校式、12月に終了式を行う間の約8カ月
受講生 : 19年度は新規受講生39人、自主研修生23人
施行者(事業者) : 学校長は市長、理事長はJA東京むさし国分寺地区代表、講師は地元農業者

実施内容 : 1.開校式、2.体験学習(作業日は原則として週3回、8:30から1~2時間)、3.講義形式の教室、4.収穫祭・交流会の実施、5.終了式(修了証書の授与)

自主研修制度 : 講師が行かない以外は上記の新規受講生の内容と同じ

参加費用 : 新規受講生は5000円、自主研修生3000円

②援農ボランティア制度

援農ボランティアの登録:援農ボランティア認定者のなかで援農ボランティアに登録した人を、ボランティアが必要という市内農家に紹介する

ボランティアの活動日数・期間 : ボランティア登録者と受け入れ農家の話し合いで決める。おおむね週1回

援農ボランティア技術習得講座 : 援農ボランティアを希望する市民農業大学受講生を対象に、講座と実習で体系的に学ぶ。費用は無料。講師はJAの各生産部会長が担当。講座の出席率が70%以上の受講生には「援農ボランティア認定証」が交付され、翌年度から援農ボランティアとして登録される